

原子燃料公社に望む経費

1. 事業計画

- (1) わが国に原子炉を至急築造すべきこと及び将来の主要なエネルギー資源としての原子炉の重要性については前述したところであるが、原子炉の燃料たるウランその他の所謂核分裂性物質は国産化されることが望ましく、これがまたわが国の各産業に安価な熱源動力源を供給し得る唯一の途である。
このために原子燃料公社を設立し、精査、試掘、採掘、送鉍、精錬、冶金に至る一連の事業を行わしめるものとする。
- (2) ウラン鉍石は含有率0.2%程度のもので採算に合うとされている。これ迄の探査の結果発見されているわが国のウラン鉍石は含有率の高いもので、0.02%程度であるが諸外国の例に徴すれば、地質構造から見てわが国には有望な鉍脈発見の可能性が随分多く、大規模な深査を行うことにより、原子燃料は国産化され得ると期待される。
- (3) ウラン等の鉍床は、他の鉍物資源と全然別個に存在するので、このような処世世に対する探査は先ず航空機にシンチレーション、カウンターを積載して検査及び精査を行うが、前者は世襲調査所において行い、後者は公社によるものとする。ついで、試掘、採掘の事業は勿論、送鉍、精錬、冶金に至る一連の事業を公社に集中して行うことにより、人体障害防止を最も要求されるこれらの事業の円滑な実施を得るものとする。
- (4) 一般鉍物は鉍業法の先願主義に基づき出願によって鉍区を私有せしめているが、原子燃料の国家的重要性及び探査を国及び公社で行うものであることからこれが探掘権は寧ろ私有せしめるべきでないと考えられ、従つてこれを原子燃料公社の所有とし、探掘箇所、方法、量などを国家的見地から規制せしめる。
- (5) ウラン等の製錬については現在研究を進めており近くこれが完成を見る予定であるが、大規模な設備、莫大な資本を要しとうてい企業の負担に堪えぬものであり、しかも製錬費の大小は原子燃料の価格に直接影響するものであるから、衆智と資本を結集して、これを公社に於て行わしめることとし、その経費の全額を政府の負担とすることとする。

2. 要求額内訳

科 目	要 求 額	備 考
原子燃料公社出資金	1481,177 千円	

原子燃料公社株構図 (案) (230名)

総務部 (40) { 庶務課 (10)
 企画課 (5)
 助成課 (10) (探鉱奨励金、鉱石買上等)
 調査課 (10)
 工場建設課 (5) (臨時)

探査部 (60) { 精査課 (40) { 航空機
 物理探鉱
 地質探鉱
 試掘課 (20)

開発部 (50) { 探鉱課 (30)
 送鉱課 (20)

研究部 (80) { 製錬冶金課 (30)
 加工課 (20)
 廃棄物処理課 (30)

(1) 原子燃料公社出資金内訳

(イ) 公社工場事務所建物 5,000千円

100坪 × 100千円 = 10,000千円 { 31年度 5,000千円
 32年度 5,000千円

(ロ) 飛行機 104,000千円

ビーチクラフト 2機 104,000千円

2. その他 (事務室、医務室、会議室、図書室) 75000 千円

300坪 X 504坪 = 15,000 千円 (31年度分 7,500千円)
 (32年度分 7,500千円)

3 倉庫 43,000 千円

幹部用 20戸 X 25坪 X 70千円 = 35,000 千円

その他 40戸 X 15坪 X 50千円 = 30,000 千円

計 65,000 千円

(31年度 43,000 千円

32年度 22,000 千円

(X) 前項附帯工事費 13,000 千円

工業用新施設 1式 10,000 千円

電話交換機 50回線 X 60,000 = 3,000 千円

(N) 製錬設備 50,910 千円

サーベーター 1台 200 千円 AC100V 500~100000 カウント分

天秤 化学用 1台

120

鉸山用 1台

定温乾燥器 2台 40 2KW

管気炉及耐屈圧調整器 1 60 5KW

攪拌器及耐屈速度調整器 2 40 1/6 HP 1/8 HP

真空ポンプ 1 50 11000 mm

其の他雑品 100 家具

小計 610

変電装置その他一式 50,000

室内換気装置 300

小計 50,300

合計 50,910 千円

(イ) 探査車 25,000 千円

$$5 \text{ 台} \times 5,000 \text{ 千円} = 25,000 \text{ 千円}$$

(ニ) 自動車 12,500 千円

乗用車 $5 \text{ 台} \times 1,500,000 = 7,500 \text{ 千円}$

トラック $5 \text{ 台} \times 1,000,000 = 5,000 \text{ 千円}$

(ホ) 放射線測定装置 332,000 千円

エアボーン用シンチレーションカウンター $5 \text{ 台} \times 900 \text{ 千円} = 4,500 \text{ 千円}$

カーボーン用 " $8 \text{ 台} \times 500 \text{ 千円} = 4,000 \text{ 千円}$

" ガイガーカウンター $20 \text{ 台} \times 75 \text{ 千円} = 1,500 \text{ 千円}$

携行用シンチレーションカウンター $860 \text{ 台} \times 200 \text{ 千円} = 172,000 \text{ 千円}$

" ガイガーカウンター $200 \text{ 台} \times 75 \text{ 千円} = 15,000 \text{ 千円}$

(ヘ) 分析装置 11,000 千円

シンチレーションスペクトロメータ $3,500 \text{ 千円} \times 2 = 7,000 \text{ 千円}$

附属装置を含む

電子顕微鏡 $3,000 \text{ 千円} \times 1 \text{ 台} = 3,000 \text{ 千円}$

化学分析装置一式 $1,000 \text{ 千円} \times 1 \text{ 台} = 1,000 \text{ 千円}$

(ト) ボーリング用装置 10,000 千円

試験用ボーリング装置 $1,000 \text{ 千円} \times 10 = 10,000 \text{ 千円}$

(チ) 探鉱用装置 9,000 千円

シンチレーションカウンター
 $1 \text{ 台} 600 \text{ 千円} \times 10 \text{ 台} = 6,000 \text{ 千円}$

ガイガーカウンター
 $1 \text{ 台} 150 \text{ 千円} \times 20 \text{ 台} = 3,000 \text{ 千円}$
(本装置は民間の相談に応え貸与する)

(リ) 送金精錬工場建設費 130,500 千円

1. 工場建物 80,000 千円

$$\text{延} 1,200 \text{ 坪} \times \text{坪} 100 \text{ 千円} = 120,000 \text{ 千円} \text{ (31年度分 } 70,000 \text{ 千円)}$$

$$20 \text{ 坪} \times \text{坪} 500 \text{ 千円} = 10,000 \text{ 千円} \text{ (特殊遮蔽室)}$$

(オ) 廃棄物処理研究設備 69,000千円

種 類	数 量	単 価	金 額	備 考
マニピュレーター	1	5,000	5,000	電気制御式2kW容量干渉
、	2	3,000	6,000	機械駆動式容量30ポンド
電動ホイス	2	500	1,000	一般実験室用
撲気及び收塵装置	16	100	1,600	300#3/min ^{フアイバーグラス} エアフィルタ使用
ホットセル	1	5,000	5,000	
人体放射能監視装置	1	3,000	3,000	出入口用
放射性物質運搬車	3	300	900	
放射性物質格納箱	2	500	1,000	
鉛ブロック	10t	300	3,000	
臭化亜鉛	20	75	1,500	視窓用(補給用)
質量分析装置	1	19,000	19,000	
ペリスコープ	2	1,000	2,000	スプレーター用
各種実験器具	、		5,000	
各種測定器具			5,000	
工業用水施設			5,000	
廃水処理施設			5,000	

(ウ) 人件費 190,400千円

内訳 A. 俸給

$$35,000 \text{円} \times 230 \text{人} \times 14 \text{ヶ月} = 112,700 \text{千円}$$

B 時間外手当等 22,500千円

俸給の2割を計上せり。

C 旅 費

$$20,000 \text{ 円} \times 12 \text{ 月} \times 230 \text{ 人} = 55,200 \text{ 千円}$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{滞在費 / 日} \\ \text{旅行費} \\ 1,500 \text{ 円} \times 10 \text{ 日} + 5,000 \text{ 円} = 20,000 \text{ 円} \end{array} \right)$$

(カ) 人夫傭上料 14,400 千円

$$1 \text{ 班} \times 4 \text{ 人} \times 100 \text{ 班} \times 10 \text{ 日} \times 12 \text{ 月} \times 300 \text{ 円} = 14,400 \text{ 千円}$$

(キ) 管 理 費 40,100 千円

$$\text{設備費} \quad 50,000 \text{ 円} \times 230 \text{ 人} = 11,500 \text{ 千円}$$

$$\text{人口に伴う至費} \quad 20,000 \text{ 円} \times 230 \text{ 人} = 4,600 \text{ 千円}$$

$$\text{飛行機及自動車維持費} \quad 1,000 \text{ 円} \times 12 \text{ 月} = 12,000 \text{ 千円}$$

$$\text{その他雑費} \quad 1,000 \text{ 円} \times 12 \text{ 月} = 12,000 \text{ 千円}$$

(ク) 本部借入権利金 10,000 千円

$$\text{坪} \quad 100 \text{ 千円} \times 100 \text{ 坪} = 10,000 \text{ 千円}$$

(ケ) 本部借上料

$$\text{坪} \quad 2000 \text{ 千円} \times 100 \text{ 坪} \times 12 \text{ 月} = 2400 \text{ 千円}$$

(コ) 探鉱奨励金 344,667 千円

$$\text{試験} \quad 1000 \text{ 円/m} \times \text{延長米} \quad 88,000 = 88,000 \text{ 千円}$$

$$\text{掘下り} \quad 14,000 \text{ 円/m} \times 3,500 = 49,000 \text{ 千円}$$

$$\text{水平坑道} \quad 10,000 \text{ 円/m} \times 38,000 = 380,000 \text{ 千円}$$

$$\text{計} \quad 517,000 \text{ 千円}$$

3分の2 を奨励金として補助するものとする。

$$517,000 \times \frac{2}{3} = 344,667 \text{ 千円}$$

(サ) 工場敷地 1,900 千円

$$100,000 \text{ 坪 (国有地借用)} \times \text{坪} \quad 19 \text{ 円} = 1,900 \text{ 千円}$$

(セ) 台土整地費 3,000 千円

$$1000 \text{ 円} \times 3000 \text{ 坪} = 3000 \text{ 千円}$$

(シ) 交 際 費 月 20 万円 \times 12 月 = 2400 千円

(ス) 予 備 費 100,000 千円